

震災・医学・医療に関連する商業紙報道の見出し・概要（平成23年7月1日～7月31日）

東日本大震災

		新聞	掲載面	掲載日
官公庁	内閣府食品安全委員会は自然からの放射線量を除き、生涯に受ける累積線量は一人100mSv未満に抑えるべきとする答申案をまとめた。	読売	34面	7.27
大学	政府は東日本大震災の「地域復興センター」を被災地の大学に設置する検討を始めた。被災3県の知的資源を活用しながら、自治体や企業と連携し復興を支える狙いがある。大学の産学官連携の基盤を活用する予定だ。	読売	4面	9.19
官公庁	総務省が原発で放水作業にあたり被ばくした消防隊員について、退職後も含めた長期的な健康追跡調査を行う方針を固めた。	読売	39面	7.13
病院	がん診療連携拠点病院などで作る「東北がんネットワーク」によると、放射線装置がある東北地方の64病院のうち、災害直後では23施設で装置の故障や混乱のため、一時的に放射線治療ができなくなっていたと言う。治療継続のため4月26日の時点で45人の患者が既に転院した。	読売	17面	7.1
医療	東日本復興支援で医療・介護系約30団体で構成される「被災者健康支援連絡協議会」が医師の長期派遣のあっせんを始めた。第1弾として宮城県気仙沼市立本吉病院に赴任した。被災地では、すぐに常勤医を探すのは困難であり、有効活用することにより支援強化の大きな助力となる。	読売	33面	7.22
支援	千葉大附属中生130人が応援川柳を作成。「思い出は津波ごときに流されない」など被災者へのエールが込められた。	読売	34面	7.20
節電	慶応大学藤沢キャンパスで節電に向けて環境省前次官が井戸水での打ち水や太陽光パネルの設置などを計画し、実行し始めている。環境前次官は打ち水により20度も地面の表面温度が下がったことを明かした。	読売	夕・3面	7.16
節電	経産省は定期点検で止まっている原発が再稼働しない場合、東北電力・関西電力・北陸電力・四国電力・九州電力の5社で今年12月から来年2月ごろに4～20%程度の供給力不足に陥る見通しをまとめた。現在電力各社や日本原子力発電が保有する54基のうち35基が運転を停止している。	千日	1面	7.3
被災者	福島県では全県民200万人の被ばく健康調査を実施し、18歳以下については長期にわたって甲状腺の検査を行うことを決めた。	読売	面・35面	7.25
被災者	震災の恐怖心や生き残ってしまった責の念から精神的不調を起こすことは、異常な体験に対する正常な反応である。精神的不調は、精神症状とは限らず、めまいや過呼吸、胃のむかつきなどの身体症状で表れることがある。多くの場合は2～3カ月で自然に回復する。焦らないことが大事である。	読売	12面	7.19
被災者	石巻赤十字病院呼吸器内科では震災から2ヶ月で患者316人のうち190人が肺炎患者であった。前年の4.3倍に増加しており、ヘドロやがれきの粉塵を大量に吸い込んだ影響があると医師は指摘する。	読売	16面	7.15

ストレス	長時間のバス移動等の避難ストレスで福島原発周辺の特別養護老人ホーム等入所者826人のうち、77人が3カ月間で亡くなっていた。少なくとも23人の遺族が自治体に災害関連死の申請をしている。死亡した年齢は90歳代が46人と一番多い。死因は肺炎、脳梗塞などで老衰の人もいたという。	読売	39面	7.2
放射線	千葉県東金市は放医研博士を招き職員研修を実施した。博士から「(放射線による影響は)肥満や喫煙、大気汚染よりはるかに死亡リスクは少ない」などの説明があり、山武郡内の各市町の議員や職員約300人が話に聞き入った。	千日	8面	7.31
放射線	福島県浅川町より放射性セシウムを含んだ稲わらを与えた肉牛が出荷されていたことが14日分かった。稲わらは同県白河市内のものだが、市は稲わらを扱う業者らに出荷制限の指示を出していなかった。	読売	38面	7.15
放射線	福島県南相馬市の肉用牛から国の暫定規制値を超えるセシウムが検出された。牛は既に流通しており、437.65kgが北海道、東京、大阪、神奈川、静岡、愛知、徳島、高知の8都道府県で精肉店や飲食店で消費されている可能性があるという。	読売	39面	7.14
サイト	セシウム汚染牛肉の6頭の固体識別番号を入力するだけで、牛がどこで生まれ、育てられ、搬入されたか分かる。独立行政法人家畜改良センター： https://id.nibc.go.jp/top.html	読売	19面	7.13

官公庁

統計	厚労省が日本人女性の平均寿命が前年から0.05歳低くなり86.39歳と発表した。男性は0.05延びて79.64歳であった。平均寿命が前年より下回るのは熱中症死など猛暑によるものと分析した。	読売	32面	7.28
統計	合計特殊出生率が2005年より上昇しており、2010年では1.39であった。国立社会保障・人口問題研究所や明治大学の専門家は30年代半ば以降の駆け込み出産が影響したと分析している。	読売	17面	7.5
医薬品ネット販売	政府は一般医薬品のネット販売に関して2010年度に検討を開始した。当面の合理的な規制の在り方を議論していく方針である。また、訪問看護ステーションの開業に最低2.5人の看護師の配置が必要とされている規制に関して、特例的に規制緩和された震災被災地での実施状況を踏まえ見直しを検討している。	山日	7面	7.22
改正臓器移植法	改正臓器移植法が施行して1年で臓器提供者が55人に上った。改正前は約13年間で86人であった臓器提供者が改正1年で約8倍となった。本人の意思が不明で家族が承諾したケースが約9割であった。ただ、15歳未満の子供は1例のみである。	山日	22面	7.17
医療計画	厚労省はうつ病や認知症等の精神疾患患者の増加を受け、「精神疾患」を地域医療の基本方針となる医療計画に盛り込む方針を決めた。医療計画には「がん」「脳卒中」「急性心筋梗塞」「糖尿病」が既に指定されており、「精神疾患」が加わり五大疾病となる。	信毎	1面	7.8
医療費	厚労省の調査によると2009年度国民一人当たり医療費の全国平均は445,000円であることが分かった。高知県は最も高く572,000円で、千葉県が最も低い363,000円であった。厚労省は「入院費が高く高齢者が多い地域ほど、医療費も高くなる傾向がある」としている。	千費	19面	7.3

産科医療政策	山梨県で県議会3会派（自民党・県民クラブ、民主系フォーラム未来、公明党）が「周産期医療研究検討協議会」を立ち上げた。当面は産科医療を中心に研究・勉強する予定である。	山日	2面	7.2
--------	--	----	----	-----

大学・教育施策

大学の實力調査	医学部・歯学部の国家試験支援策が各大学で展開されている。聖マリアンナ医科大では面談や細かな情報提供をしており、旭川医科大では試験に落ちた卒業生を対象に10万円貸与制度を始めた。名古屋大では研究者育成のためのメディカルサイエンスカフェ（教員の研究紹介）を実施している。大学別の卒業者・就職者・進学者数の一覧が掲載されている。	読売	17面	7.14
大学の實力調査	就職支援につながる「コミュニケーション能力」向上取組みが各大学で展開されている。九州産業大では、コミュニケーションをうまくとれず休みがちな学生にモーニングコールを開始した。富山大では自殺防止対策室、クラス担当、保健管理センターで連携をとっている。	読売	27面	7.7
中高一貫	千葉県教育委員会は2012年度から10年間の県立高校改革に関する県立学校改革推進プランで公立中高一貫校の設置や震災を教訓に防災関連科目の導入を考えていることを明らかにした。	千日	1面	7.21
留学生	日本の大学に通う外国人留学生は震災後も9割が戻り勉学に励んでいるものの、日本語学校に入学予定だった学生は約22%が入学を取りやめていた。日本をよく知る各国のリーダーを世界中に増やすためにも外国人人材の育成は重要である。	読売	13面	7.26
授業料の減免	放射線の教育は、中学校では1981年から30年間教科書で扱われておらず、高校では重要な扱いではなかった。福島県立福島高校は文科省が定める「スーパーサイエンスハイスクール」だが、放射線に関する知識を詳しく学ぶ機会はなかった。今では生徒が放射線量を観測したり、線量が原発から遠い割に高めでも「砂に付着した放射性物質の粒子から放射線が出るので砂を吸い込まないように気を付けるが、マスクをするほどでもない」と冷静に分析する。	読売	1面	7.5
授業料の減免	読売新聞社の調査によると、大学サイドで東日本大震災の被災地から入学する学生への支援が広まり、「授業料の減免」実施が57%に上った。その他にも、被災地へ医療チームを派遣する医大や学食のランチに寄付金分を上乗せし被災地へ送る大学などがでてきており、幅広い支援が続いている。	読売	27面	7.7
千葉大で植物工場	千葉大柏の葉キャンパスに閉鎖された環境で温度と水養分などを管理して野菜などを栽培する1.3ヘクタールの植物工場が誕生した。種苗、電機メーカ - など60社・団体が九つの事業グループに分かれて栽培技術を競う。	読売	京葉版	7.1
東大、秋入学検討	東京大学が国際化に向けて、秋入学の検討を始めた。入学時期を秋に1本化する案のほか、春と併存する案、卒業は春のままで修学期間を延長する案も検討する予定である。	山日	2面	7.2

病院の経営

新設/千葉大附属病院	千葉大附属病院は2011年度に着工する「新外来棟」の施設内容を明らかにした。新外来棟には高齢者医療センターを新設する。県内65歳以上の高齢者人口が05年～15年で増加率50%、30年後の2045年には200万人に達する見込みであることから高齢者の診療強化を図る。同センターでは、複数の疾患を抱える患者でも各診療を自ら移動して受診する必要はなく、各医師が出向いて診察をしてくれるシステムをとる。	千日	1面	7.31
新設/松戸市立病院	松戸市立病院の建て替え問題に暗雲広がる。建替計画計画検討委員会から答申を受けた松戸市長が答申の核心部を無視する行動を起こし、反発が広がる。	千日	県西版	7.21
実績公表	国立がん研究センターはがん診療連携拠点病院(全国377中355施設)について、病院ごとの患者数や術件数などの治療データを初めて公表した。	読売	33面	7.26
明細書	診療明細書と調剤明細書が2011年4月から原則発行となった。窓口の負担が増えるとの否定的意見もあるが、患者からは投与された薬名などを理解する一助になるとの意見もでている。	産経	17面	7.22
特定看護師	厚労省「チーム医療推進会議」で特定看護師の創設に向けて議論が進んでいる。特定看護師は医師しか認められていない医療行為の一部を行い、医師から大まかな指示さえあれば、患者の状態を判断しながら薬を出したり、簡単な検査や処置を行える。しかし日本医師会などでは「患者の安全が心配」などを理由に反対している。	読売	15面	7.17
医療観光	医療観光を推進するタイ・バンコク病院が長野県・相沢病院など複数の日本の病院と提携し、相互の患者紹介や診療記録などの情報を共有する取組に乗り出した。	信毎	7面	7.9

臓器移植

組織	日本、韓国、台湾の移植学会が脳死移植の拡大に向け、国際的な連携組織を設立することが分かった。当面は自国・地域で臓器提供者の増加を目指す。	長日	4面	7.10
脳死	厚労省の調査で15歳未満の脳死判定は2011年7月からの1年間で少なくとも29人に上ることが分かった。そのうち12人は30日以上生存しており、長期脳死については十分な説明を行い、移植に関して家族に判断をゆだねることが妥当と指摘した。	読売	面・11面	7.19

再生医療

低身長症	名古屋大附属病院の骨形成を促進する技術が厚労省の高度医療評価会議で高度医療として承認された。同病院は患者の骨髓液を採取して骨をつくる細胞などを培養し、患者の体内に戻すことで、感染症リスクも低下し骨も手術治療より丈夫になることを発表した。	読売	1面	7.12
iPS	理化学研はiPSをiPSのままに留め置いたんぱく質「Cc12」を発見した。iPS細胞を実験に使える状態で保存することに役立つ技術である。	読売	33面	7.27

iPS	京大のiPS技術の特許が欧州特許庁に登録され、英独仏など主要17か国で登録される予定である。欧州では特定の遺伝子だけでなく今後見つかるものでも構造が似通っていれば類似因子として特許に含まれることになっており、日本の特許より厳しい内容となっている。	読売	1面	7.12
-----	---	----	----	------

産科・小児科

手足口病	乳幼児の口の粘膜や手、足に水ぼうそうのような発疹が現れる感染症「手足口病」が82年以来最多の流行をみせている。国立感染症研究所の調査によると全国約3千の小児科定点医療機関（7月11～17日分）で1機関あたり患者数は11.0人で約73%を0～3歳児が占めた。今年は例年とは異なり「コクサッキー A6」ウイルスが主流で、腕や太ももに発疹が生じる。近年、同ウイルスの感染が発生した欧州では、治療数週間後に爪が浮き上がってはがれたり、変形したりする事例が報告されており、日本でも同様の症状がおこる可能性がある。	千日	19面	7.31
ワクチン/ポリオ	不活化ポリオの公費接種は早くても来年度になる見通しとなった。厚労省は国内4社が進めているジフテリア、百日ぜき、破傷風の3種混合と不活化ポリオを一度に接種できるワクチンの開発を待つ方針である。	山日	17面	7.8

情報科学

カルテ管理	千葉県では千葉大病院、順天堂大学浦安病院、亀田総合病院で糖尿病患者のデータを共有し、地域ぐるみで疾病管理に乗り出す。	読売	夕・5面	7.26
大学DB	文科省は全国の大学の学費・進路などの情報を一元化したデータベースの構築に乗り出す方針を固めた。	読売	36面	7.21
電子書籍	富士通と東芝は4～6月に電子書籍サイトを開設した。ソニーは6月に楽天や紀伊国屋書店、パナソニックと電子書籍事業で提携した。講談社は2012年夏までに漫画の電子化体制を整え、新潮社では電子版の書籍を出版する方針である。学研ホールディングスは新刊の電子化を目指す。	読売	7面	7.10
iPad	読売新聞紙面やサイトで公開されている「病院の実力」がiPadのアプリで1000円で購読できることになった。	読売	16面	7.3

遺伝子・医工学

シンギングマウス	大阪大のチームが遺伝子操作したマウス同士を掛け合わせる実験中に、「ピピピ」と小鳥がさえずるように鳴くマウスを発見し、シンギングマウスと名付けた。鳴き声は8世代以上に引き継がれた。一緒にいたマウスにも鳴き方がうつり、超音波の鳴き声をあまり出さなかった。	千日	18面	7.10
糖尿病	東京大疾患生命工学センターが肥満が進んだ状態では糖尿病を引き起こす悪玉となる血液中のたんぱく質「AIM」を発見し、米科学アカデミー紀要電子版に投稿した。血中に「AIM」が増加すると、脂肪組織にマクロファージが集まりやすくなり炎症を起こす。その後、インスリンの作用が妨げられ、糖尿病へとすすむ。なお、「AIM」は太り始めには中性脂肪を分解して肥満の進行を防ぐ善玉である。	長日	7面	7.18

多系統委縮症	北海道大学と民間研究機関「DNAチップ研究所」は小脳が委縮し運動機能が失われていく神経系難病、多系統委縮症患者の多くに共通の遺伝子異常があることを発見した。発症者は第19番染色体の一部が欠損しており、33症例中10症例で同じ欠損を確認した。	産経	26面	7.31
食中毒	国立医薬品食品衛生研究所などが嘔吐や下痢を引き起こす可能性をもつ寄生虫を発見した。ゲノム解析でヒラメから「クドア属粘液胞子虫のクドア・セプテンブククタータ」、馬肉から「ザルコシステイス属住肉胞子虫のザルコシステイス・フェアリー」のDNAが検出された。厚労省の調査では、原因不明として処理された食中毒は2009年6月から今年3月までにヒラメで135件、馬刺しは33件あった。今後の自治体の認識や食中毒への予防策に大きな貢献となる。	山日	5面	7.18
造血幹細胞	カナダのオンタリオがん研究所などのチームが人間の造血幹細胞の表面に現れる糖たんぱく質の一種「CD49f」の細胞一個をマウスに移植し、マウス18匹のうち5匹が造血したことを米科学誌サイエンスに発表する。	読売	37面	7.8

読者投稿

単純性血管腫	単純性血管腫で生まれつき顔の左半分を赤いアザが覆っている営業マン、見た目を気にする人の「人生のモデル」になりたいとアザを隠すことなく元気に毎朝通勤する。(20代男性)	長日	7面	7.18
医師養成制度	医師不足には様々な対策が講じられているが、医師養成課程を見直すべきである。特に、日本の医師養成教育では臨床医学が偏重されている。その結果、医師の人間性や倫理感が問われてきている。知識や技術だけでなく人間形成に通じる奉仕活動も体験するなど社会と医療を俯瞰する準備教育は不可欠である。(日本医療経営学会理事長)	読売	13面	7.20
出生前診断	出生前診断にあたる羊水検査は検査に伴う破水や出血、感染による流産や死産の危険性が約0.5%ある。他にも母体血清マーカーや超音波検査があるが、遺伝カウンセリングを事前に十分することが大切である。(国立成育医療研究センター周産期センター長)	読売	19面	7.14
出生前診断	遺伝カウンセリングを1時間受け、誤った認識や悩みを解決できた。羊水検査を考えていたが、胎児の染色体異常は分かっても知的障害などは確認できないこと、流産の危険性があることも説明してもらえ、正しい知識を得たという安堵感が生まれた。(37歳女性)	読売	18面	7.13
出生前診断	近年の超音波画像では出生前の胎児が「完全大血管転位症」を患っていることがわかるようになった。完全大血管転位症は肺動脈と大動脈が入れ替わる病気であり、事前に分かったことで手術の用意も家族の心構えもできる。(医師)	読売	18面	7.12
出生前診断	超音波検査で「NT」(首の後ろのむくみが通常より厚い。一定以上だと染色体異常の可能性あり)と判断され、医師には「まだ墮胎できる」と言われた。墮胎の手術3日前に別の医療機関で検査するとNTは小さくなっていた。NTが小さくなる可能性があること、むくみが見つかって異常がないことがあること、診断が医師によって差があることなど、医師にはもっと丁寧に説明して欲しい。(30代女性)	読売	16面	7.6
認知症	病室や廊下を暮してきた家や町に変えてゆく。消火栓の赤いランプをみて「駅前に来た」と思い、病室の扉からは自宅と思う。認知症は想像力と創造力を際立たせてゆくのかもかもしれない。(長野県看護大学長)	千日	14面	7.10
介護施設の仕事	60代で介護ヘルパーの資格をとっても、現場では事務作業等もありすぐに即戦力にはなれない。まずはボランティアで施設の仕事を経験してほしい。(介護施設職員)	読売	12面	7.12

麻酔科医の仕事	麻酔科医の仕事は患者さんが眠っている間である。静脈に麻酔薬を投与し、その後は持続的な静脈注射やガスの吸入麻酔薬で麻酔を持続する。一方、患者さんの意識がない間も痛みからくる体のストレスを防ぐため、強い痛みを伴う時は麻酔薬や鎮痛薬を多く使用したり、血圧の上昇や脈拍の増加に気を配る。痛みが弱い時は余分な麻酔薬の使用を控えることで患者さんの負担を減らす。（長野県諏訪赤十字病院第二麻酔科部長）	長日	7面	7.18
---------	---	----	----	------

症状相談

おたふく風邪	思春期以降に感染すると約3割が精巣炎や乳腺炎を、約1割が卵巣炎や甲状腺炎を合併する。大人でも予防のためワクチン摂取は可能である。おたふく風邪は感染しても約3割は発症が出ないため、既に感染し免疫ができている可能性もある。	読売	14面	7.10
急性膵炎	急性膵炎の症状は腹痛が一番多く、腹痛で受診した約5%が急性膵炎と診断されている。主な原因はアルコールの過剰摂取と胆石、高脂血症、膵管の異常、服薬の影響、腹部の強打、ストレスなどが挙げられる。治療は原因の除去が大切である。	読売	15面	7.17
便潜血反応	40歳以上で便潜血反応が陽性の場合、大腸がんの疑いがある。検査には大腸内視鏡検査がお勧めである。しかしながら、若い人が陽性の場合、大腸がんの可能性はかなり低い。病気とは無関係の一時的な現象であることも少なくない。症状が長引くならば検査が必要である。	読売	15面	7.17

介護・高齢者

便秘	2007年の国民生活基礎調査によると、便秘を自覚する人（病院、施設入居者除外）は全国に推計485万人におり約半数の248万人は65歳以上が占める。東京都の松生クリニック院長は、加齢とともに腸の動きは悪くなり、筋力も衰えて腹部に力が入りにくくなるため、便秘になる高齢者は多いと指摘する。ユニ・チャームの「排泄ケア研究所」では排便体操を考案し、冊子やネットに公開している。	読売	17面	7.1
----	--	----	-----	-----

ミス・事件・訴訟

アレルギー薬と劇症肝炎	花粉症などに使用されるアレルギー用薬「アレロック」（主成分：オロパタジン塩酸塩）の服用で90代と40代の男女2人が劇症肝炎を発症し、死亡した。厚労省は服用との因果関係が否定できないとし、販売元の共和発酵キリンに対し、医師向け添付文章の改訂を指示した。	長日	5面	7.1
救急搬送	千葉市で病院受け入れ拒否7回で80代の男性が救急車内で死亡。拒否の理由は「満床」「患者対応中」「処置困難」などであった。	千日	21面	7.27
救急搬送	総務省消防庁の調査で2010年、重症患者の救急搬送で医療機関から3回以上受け入れ拒否されたケースが16,381件に上った。最多は東京都60代男性で41回であった。高齢化に伴うお年寄りの搬送数が増加する一方で、病院側の体制整備が間に合っていないことが要因とみられる。	産経	22面	7.23

京大病院の医師逮捕	京都大病院の医師を大麻取締法違反の疑いで逮捕した。医師は乾燥大麻約0.15gを所持していた疑いがかかっている。	山日	22面	7.18
臓器売買	宇和島徳洲会病院で行われた生体腎移植は住吉会系暴力団組長が「幹部を知っている」との理由で同病院を容疑者の医師に紹介していたことが分かった。警視庁はすでに幹部の名前が記載されたメモを押収している。	読売	39面	7.15
精神疾患	中央労働基準監督署が残業月100時間でうつ病になった男性に労災を認めた。男性は環境省外郭団体「日本産業廃棄物処理振興センター」に勤務している。	読売	37面	7.6
東電OL殺害	東電OL殺害の事件現場にマイナリ受刑者以外の第三者のDNAが残されていたが、人物の特定に未だ至っていない。第三者が特定されないことは、マイナリ受刑者に有利に働くとみられている。	読売	1面	7.22
熱中症	総務省消防庁の調査によると、熱中症の死者が5月30日～7月3日で19人にのぼった。搬送されたのは8,372人で昨年同時期の約3倍であった。梅雨のさなかに猛暑が続いているのが原因と見られる。	読売	37面	7.6
無資格で麻酔	千葉県がんセンターの歯科医師2名が資格がないのに麻酔業務を行ったとされる事件で、2名は国が定めるガイドラインに従っていなかった疑いもたれている。ガイドラインには患者への同意、関係学会へのネット上登録が義務付けられているが、県警はいずれも実施されていなかったと判断。2名は最高難度Dランクの麻酔を含め83件の麻酔を行っていた。2名は容疑を否認している。	読売	31面	7.31

自然災害

地震	政府は神奈川県を走る活断層「三浦半島断層群」の地震発生の確率が高まった可能性があるとして発表した。これで、確立が高まった活断層は4つ（双葉断層、立川断層帯、糸魚側一静岡構造線活断層系）目である。東日本大震災に伴う地殻変動が原因である。	読売	37面	7.12
----	---	----	-----	------

危機管理

被災	「首相、組織的な対応が苦手」：復興会議の五百旗頭議長	朝日	4面	7.3
緊急医療情報カード	池袋地区社会福祉協議会は池袋地区の高齢者宅約100件に緊急医療情報カードを配布した。カードは円筒形のプラスチック容器に入っており、冷蔵庫のドアポケットに収納するよう指定されている。さらに黄色のステッカーを冷蔵庫の扉と玄関に張り、緊急時にカードのありかが分からないという事態を防ぐよう工夫されている。カードには生年月日、血液型、既往症、病歴、服用薬、親族の連絡先などを記入できる。	長日	15面	7.1

HP・サイト

人生相談	何がしたいのか、分からない女子大生の悩みに精神科医が回答。良き理解者を探すことが鍵に。 産経新聞文化部「人生相談 あすへのヒント」係 メール：life@sankei.co.jp FAX:03-3270-2424	産経	12面	7.3
------	--	----	-----	-----

医学・医療一般

栄養成分表示	消費者庁の検討会は原則、全ての加工食品で成分表示を義務づける報告書をまとめた。多量に摂取すると心疾患のリスクを高めるトランス脂肪酸については、日本人は摂取量がそれほど多くないという理由から表示義務を先送りした。	読売	19面	7.21
口腔がん	口腔がんの死亡率が30年前の3倍に増加している。口腔がんはがん全体の2～4%を占め年間7千人がかかる。年齢別には60代が多く、発症部位は舌が60%となった。早期治療での5年生存率は90%以上であるため、歯科医による検診は大事である。危険因子は喫煙や飲酒、炎症による口腔粘膜の障害、慢性の機械的刺激（合わない入れ歯など）が挙げられる。	山日	5面	7.18
歯並び	歯並びをよくする生活のポイントは食事は3食食べ、体に合った椅子で足元を安定させる。さらに、食欲がわくよう体を動かして遊び、4歳を過ぎての指しゃぶりの癖や口呼吸は改善させる。もちろん定期健診を受け、虫歯を作らないことも重要である。	読売	16面	7.8
薬の調剤	病院や薬局に通えず、医師が必要と判断した人には薬剤師による服用管理の訪問サービスがある。介護保険や医療保険で利用できる。複数の通院先を持つ人はかかりつけの薬局を決め、各病院でもらった処方箋を1か所で調剤してもらうことを大阪府の薬剤師は勧める。	読売	16面	7.15
DV	山梨でドメスティックバイオレンス（DV）についての相談件数が2010年で1,288件に上った。2009年の1.5倍となり、相談内容は夫や内縁の夫から殴られるケースが最も多い。	山日	1面	7.10
児童虐待	昨年度の児童相談所が対応した児童虐待の件数が5万5152件となった。2009年度より1万件以上も多く、過去最多となった。虐待による死亡は0～1歳時で半数以上を占めた。	読売	11面	7.27
自殺	厚労省が生活保護受給者の2010年の自殺率が10万人当たり55.7人であったと発表した。自殺原因は「健康問題」60.7%、「経済・生活問題」17.9%、「家庭問題」13.8%で精神疾患のある人が65.3%を占めた。	読売	37面	7.13
精神疾患	小児うつの認知度が低く、医師の養成や関係者の連携に努めている。現在、小児うつの診断は大人と同じ診断基準でおこなっているが、子どもは心理状況をうまく表現できないことが多く、正確な診断は難しい。	長日	8面	7.10
精神疾患	病院の実力：山梨県のうつ病治療実績の病院一覧を掲載。1．新規患者数、2．実施した精神療法、3．復職支援プログラムの年間参加数。	読売	山梨版	7.3
精神疾患	日本精神神経学会の調査で、うつ病の患者が100万人を超えたことが分かった。また、新型うつ病には抗うつ薬が効かないことが多いと指摘した。新型は「会社ではうつ状態がひどいが、家では元気になる」という症状である。	読売	16面	7.3
精神疾患	全国のうつ病の治療実績の病院一覧を掲載。1．新規患者数、2．実施した精神療法、3．復職支援プログラムの年間参加数。	読売	16面	7.3
睡眠	頭や首と敷布団の間の隙間を埋め、首筋を自然な難しに支える枕を選ぶことが大事である。京王百貨店新宿店やメーカーのロフテーが運営する枕工房（東京中央区）では数種類の枕が揃えてある。	読売	8面	7.10

ダイエット	副作用のない安全な抗肥満薬はまだ開発されていない。以前、米国で販売されたサプリメント「エフェドラ」では多くの死亡例が報告され、米食品医薬品機関（FDA）が発売を禁止している。	千日	14面	7.10
鉄道	日暮里と成田空港を結ぶ京成成田スカイアクセスは開業1年を迎えたが京成電鉄の利用者は約1%増にとどまった。より利便性を高めるため、利用者が多い東京駅までの乗り入れを計画しているが、建設日が当面の課題である。	読売	京葉版	7.15
透析向けレシピ	バイエル薬品が、透析患者向け料理のオリジナルレシピを競う「バイエル・レシピコンテスト」を開催。応募はバイエル・レシピコンテスト事務局HPで確認できる。	長日	7面	7.18
熱中症対策	予防には冷却シートなどを活用し、皮膚表面近くに太い血管があり、体温を下げやすい首の周囲などを冷やすのは有効である。	長日	7面	7.18
熱中症対策	やや暑い環境でややきつと感じる運動の後に牛乳を飲むことで強い体になると信州大教授が提唱。研究では気温25～30度、湿度50～70%の環境で、1回300～500mlの汗をかく運動を1日15～30分、1週間に3～4日、1～4週続けると、血液が200～300ml増えることが分かった。さらに、運動後30分以内に牛乳などを摂取することで体温調節能力が20～50%改善。肝臓のアルブミン生産能力が向上し、血液量が増加、皮膚の表面まで血液が循環し、体温の調節能力の向上につながるという。	信毎	1面	7.2
食事	政府は「和食」をユネスコの世界無形文化遺産に登録することを目指している。既にフランスの美食術やメキシコの伝統料理、地中海料理が登録されている。	読売	2面	7.6
美容	がん患者を支援するNPO法人キャンサーリボンズは看護学生の髪の毛でウィッグを作り贈呈している。	長日	7面	7.10
美容	内科医やお茶の水女子大教授らが、肌のシミやしわにはポリフェノール摂取が効果的であり、コーヒーを飲むと紫外線シミが少ない傾向があることを確かめた。約9千人で調べたところ、コーヒーを毎日2杯以上摂取する人ほど、紫外線シミが少なかった。	千日	14面	7.10

朝日新聞・毎日新聞 記事見出し一覧

被曝	原発賠償 風評被害どこまで：紛争審範囲策定へ：29日にも中間指針	朝日	7面	7.29
被曝	千葉では給食に[放射性セシウムに汚染された稲わらを食べた可能性のある牛の肉が使用されていたと発表]：習志野市の小学校	朝日	38面	7.21
被曝	原発の5キロ圏内：高線量地点集中：北西方向も	朝日	7面	7.21
東日本大震災	被災地介護施設：死亡数が3倍に：3月中下旬	朝日	1面	7.18
東日本大震災	避難：高齢者に重い負担：栄養剤や流動食不足	朝日	3面	7.18
東日本大震災	復興支援大学も本腰：ボランティアに単位：文化財修復も	朝日	3面	7.17
東日本大震災	原発並み太陽光発電：サウジの砂漠で実験：東大・シャープ協力	朝日	8面	7.12
東日本大震災	東北に医療機器拠点：管政権が復興特区構想	朝日	5面	7.31

大学・教育施策	大学は市場によって開かれる：上智大学教授	朝日	夕・3面	7.19
大学・教育施策	奨学金「ご褒美型」続々：成績上位に支給・入学前予約も：朝日新聞社・河合塾調査	朝日	3面	7.13
再生医療	iPS安定培養へ新物質	朝日	27面	7.18
再生医療	iPSから生殖細胞：魔女狩りの規制はやめて：幸福になるとは限らない：「いのちの価値」を脅かす	朝日	15面	7.22
産科・小児科	卵巣脳腫：良性でも定期的に検査を	朝日	夕・5面	7.25
臓器移植	増える脳死移植、偏る施設：法改正1年 現場の課題：手術多い医師ら疲弊	朝日	32面	7.19
遺伝子・医工学	顕微授精：遺伝子5%に影響	朝日	27面	7.18
遺伝子・医工学	環境ホルモン：ネズミもメス化？：甘党になりメタボ体形に	朝日	夕・7面	7.20
遺伝子・医工学	小児ぜんそくに特徴的遺伝子：筑波大学など研究チーム発見	朝日	夕・2面	7.30
遺伝子・医工学	トラウマ克服できるかも：[恐怖体験が記憶される仕組みの一端を解明：横浜市大]	朝日	27面	7.18
遺伝子・医工学	親が受けたストレス、子に遺伝：理研、遺伝子の動きの变化解明	朝日	35面	7.10
症状相談	無症候性血尿：[血尿が続いてないようであれば健康診断や住民健診などで定期的に異常がないか調べれば十分]	朝日	32面	7.19
読者投稿	自ら除染始めた伊達市に敬意：（無職男性）	朝日	13面	7.18
ミス・事件・訴訟	14年後の鑑定なぜ：東電社員殺害別人DNA：微量試料、当時は困難	毎日	3面	7.22
ミス・事件・訴訟	卵子提供：海渡る日本女性：日本人夫婦向け謝礼60～70万円	朝日	1面	7.27
ミス・事件・訴訟	教授ら330人不正経理か：60大学・短大 業者に7億円プール	朝日	1面	7.29
ミス・事件・訴訟	研究費 PC・金券に：教授ら不正経理「必要悪」釈明も	朝日	39面	7.29
ミス・事件・訴訟	人気の足湯に潜む細菌：調査の4分の1にレジオネラ菌	朝日	夕・15面	7.30
医学・医療一般	イスラム過激派新世代：インドネシア 大学舞台、監禁・洗脳：爆弾製造法ネットから	朝日	13面	7.22
医学・医療一般	「そううつ病」見極めて：「うつ病」と勘違い注意：症状知り適切な治療を	毎日	13面	7.22
医学・医療一般	宇宙に行く 体重ちょこっと減る：宇宙機構、飛行士514人調査	毎日	37面	7.5

凡例 1 . 信毎：信濃毎日新聞 千日：千葉日報 長日：長野日報 山日：山梨日日 めのはな：めのはな同窓会報 夕：夕刊(その他の無記載は朝刊ないし日刊) 2 . 著作権上、新聞記事の見出しと異なる見出しの場合は、 印の後に記載しております。 3 . 掲載見出しに補足した場合、補足部分を[]で記載しております。 4 . 読売新聞、産経新聞の見出しは著作権等があり掲載記事の見出しとは異なるように配慮しております。 5 . 日本経済新聞、秋田さきがけ、河北新報の記事は著作権等があり掲載しておりません。 6 . 同一記事が複数の新聞で報道されている場合、可能な限り、最も詳しい内容ないしは早い日付で報道されたものを掲載するようにしております。また、著作権を問題としない商業紙を優先し掲載しております。 7 . 図書紹介は、単なる広告ではなく、読後の解説評論があるものを掲載してあります。 8 . 編集用の商業紙記事は、IT事業予算や編集者の努力の関係で集積しておりますので、全記事を網羅しておりません。御容赦ください。読売新聞及び朝日新聞が朝刊と時に夕刊、その他の新聞は、購入可能な際入手しての記事のピックアップです。